

化学専攻（博士後期課程）

1. 教育研究上の目的

化学専攻は、化学分野の高度で専門的な知識・研究能力を身につけ、自ら自然科学分野における課題を見つけ、その解決に向けて自立して研究活動を行うことのできる人材を養成する。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

化学専攻（博士後期課程）では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「博士（理学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. 化学分野の発展的な知識と研究手法を身につけ、独自の研究成果をあげることができる。
2. 化学分野の自立した研究者として研究に従事しうる知識と能力を有している。
3. 自らの論理的思考・演繹力や価値の創造力をもって、身に付けた知識・技能を総合的に活用することができる。

（思考・判断・表現）

4. 国際的な視野に立って思考し、研究した成果を国内外に発信することができる。
5. 周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりつつ、卓越した行動力と指導力を発揮できる。

（関心・意欲・態度）

6. 自然科学分野における課題を自ら提起し、その解決に向けて取り組むことができる。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

化学専攻（博士後期課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

（教育内容）

1. 化学分野の広い学識を修得するため、「無機化学特論」「分析化学特論」「有機化学特論」「物理科学特論」「化学物理学」「実践化学英語」を配置する。（知識・技能）
2. 化学分野の最先端の知識を身に付けると共に自らの考えを表現する能力を修得するため、「化学特別演習」を必修科目として配置する。（知識・技能／思考・判断・表現）

3. 化学研究における高度な技能を身に付けると共に、自ら研究課題を創出・遂行できる能力を修得するため、「化学特別研究」を必修科目として配置する。(知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度)
4. 先端的知識の修得と研究者としての能力を養うために、各研究室での個別的な研究へのアドバイスや議論を行う。(知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度)

(教育方法)

1. 指導教員の指導の下、先端的な研究を遂行することにより、専門及び関連分野に関する卓越した知識・技能を修得させることを目指す。
2. 指導教員の下でセミナーを定期的の開講することにより、各専門領域における最先端の知識・技術を修得できるようにする。
3. 学術論文や国内外での学会発表など、研究成果の公表に関する指導を行う。
4. 研究遂行に求められる倫理観、並びに安全重視の思想を育む機会を提供する。

(教育評価)

1. 知識・技能の修得に関しては、セミナー、学位論文の審査や研究成果の内容とその公表状況により把握する。なお、論文審査にあたっては、別に定める審査基準に基づいて、総合的に判断する。
2. 考察力・論理性、独創性、問題解決能力等の評価に関しては、発表した学術論文や博士論文の内容、研究発表や論文公聴会を通じて行う。
3. 関心・意欲・態度の修得に関しては、中間報告会や論文公聴会等によって把握する。

4. 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

化学専攻(博士後期課程)では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 化学分野の基礎的知識・研究手法を身につけている。
2. 学士課程及び博士前期課程で専攻した専門分野に関する専門的な知識・技能を修得している。

(思考・判断・表現)

3. 学士課程及び博士前期課程における学習を通じて、国際的な視野に立って自ら考え、その考えを表現することができる。
4. 周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりながら問題解決のために行動することができる。

(関心・意欲・態度)

5. 研究者としての適性を持ち、研究への強い意欲を持っている。
6. 特定の学問領域を主体的に学んでいく強い意欲を持っている。

以 上